

研究課題名	【Web 会議番号 2019_14】 乳児期のビタミン D 投与による食物アレルギー予防に関する研究
フリガナ	ナカノ タイジ
代表者名	中野 泰至
所属機関（機関名） （役職名）	千葉大学医学部附属病院小児科 助教
本助成金による発表 論文，学会発表	Risk factors of pediatric allergic diseases. Insights from birth cohort study in Chiba, Japan. Taiji Nakano DGAKI-JSA Joint Meeting, November 29 – 30, 2019, Frankfurt, Germany MicroRNA in pediatric allergic diseases. Taiji Nakano Annual Congress of Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease (KAPARD). Special Lecture (KAPARD-JSPACI Speaker-Exchange Program) Oct, 25, 2019, Seoul, Korea

研究結果要約

国内外の疫学調査から母体・乳児のビタミン D(VD)欠乏の頻度が多く、VD 低値が食物アレルギー感作及び食物アレルギー発症に深く関与する可能性が示唆されている。そこで本研究では出生早期から乳児に VD を経口的に摂取してもらい、VD が感作・アレルギーを予防できるかを検証することを目的として、VD シロップ及びプラセボを用いた無作為ランダム化比較試験を計画した。各グループ 150 名ずつ合計 300 名を予定としている。2018 年 10 月中旬からリクルートを開始し、2020 年 8 月時点で千葉メディカルセンター 125 名、千葉大学医学部附属病院 93 名で合計 218 名のリクルートを完了した。COVID19 の影響でややリクルート数は減っているが順調にリクルート者数は増えている。6 か月健診、1 歳健診まで終了したのはそれぞれ 86 名、53 名である。6 か月での血液検査ではコナヒョウヒダニ、牛乳、卵白、オボムコイドの感作率（クラス 1 以上を陽性）はそれぞれ 0%、5.8%、18.6%、5.8%だった。1 歳時点での感作率（クラス 1 以上を陽性）はそれぞれ 5.7%、20.8%、39.6%、17.0%だった。全ての症例が終了するまで VD 群かプラセボ群かオープンできないため、VD の効果について今年度はまだ評価できていない。今後 2020 年度末までに 300 名までリクルート数を集める予定である。